

# EEM スクリプトによる ASR カーネル ロードの CPU のモニタリング

## 目次

### [はじめに](#)

### [ASR カーネルの負荷をモニタするサンプル EEM スクリプト](#)

### [サンプル OID](#)

## 概要

このドキュメントでは、組み込みイベント マネージャ ( EEM ) スクリプトを使用して、Cisco ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータ ( ASR ) カーネルに対する負荷をモニタする方法について説明します。

従来の Cisco IOS<sup>®</sup> ソフトウェア デバイスでは、一般的に、`show processes cpu` コマンドを使用して CPU 使用率を確認します。このコマンドは IOS XE 上で使用できませんが、Linux カーネル上のプロセスとして動作する Cisco IOS ソフトウェア デモン ( IOSd ) をモニタするためにのみ使用されます。カーネルに対する負荷をモニタしなければならない場合もあります。

## ASR カーネルの負荷をモニタするサンプル EEM スクリプト

1 分間 ( 1-Min ) のルート プロセッサ 0 ( RP0 ) の負荷に対する ASR カーネルの負荷をモニタするサンプル EEM スクリプトを以下に示します。.40 の負荷は、アクション 1 ~ 5 をトリガーします。アクション 1 は、スクリプトがトリガーしたときにログ メッセージを生成します。アクション 2 ~ 5 は、コマンドライン インターフェイス ( CLI ) コマンドを実行して、それらをブートフラッシュに出力し、`cpuinfo` ファイルを付加します。

```
event manager applet capture_cpu_spike
event snmp oid 1.3.6.1.4.1.9.9.109.1.1.1.1.24.2 get-type exact entry-op ge entry-val 39 exit-time 180 poll-interval 2
action 1.0 syslog msg "CPU Utilization is high. Check bootflash:cpuinfo for details."
action 2.0 cli command "en"
action 3.0 cli command "show clock | append bootflash:cpuinfo"
action 4.0 cli command "show platform software status control-processor br | append bootflash:cpuinfo"
action 5.0 cli command "show platform software process slot rp active monitor | append bootflash:cpuinfo"
```

```
Router#show platform software status control-processor brief
```

```
Load Average Slot Status 1-Min 5-Min 15-Min
RP0 Healthy 0.40 0.32 0.28
```

1-Min 負荷オブジェクト識別子 ( OID ) のポーリング結果は 100 倍されます。この例では負荷が

.40 ですが、Simple Network Management Protocol ( SNMP ) OID はそれを 40 ( .40 X 100 = 40 ) として報告します。EEM スクリプト内の 'entry-val' も 100 倍する必要があります。RP0 に対する 1-Min 負荷が .40 の場合は、39 を超える 'entry-val' がトリガーされます。

```
SNMPv2-SMI::enterprises.9.9.109.1.1.1.1.24.2 = Gauge32: 40
```

警告アラートと重大アラートの負荷しきい値については、『[Cisco ASR 1000 シリーズ ルータ MIB 仕様](#)』を参照してください。

## サンプル OID

```
SNMPv2-SMI::enterprises.9.9.109.1.1.1.1.24.2 = Gauge32: 40
```